

## 令和5年度

### 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

#### (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

### 成果報告書

団 体 名	公益財団法人熊本県立劇場	
施 設 名	熊本県立劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	15,988	(千円)
	公 演 事 業	7,146 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,444 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,398 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第65回熊本県芸術文化祭 オープニングステージ 「JAZZ ドリームバンド」	令和5年9月10日(日)	エリック・ミヤシロをはじめとしたジャズミュージシャンと県内の中高生で結成されたバンドによる公演。	目標値	1,400
		熊本県立劇場コンサートホール		実績値	1,400
2	山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団	令和5年6月23日(金)	指揮：山田和樹 ヴァイオリン：榎本大進 管弦楽：バーミンガム市交響楽団	目標値	1,500
		熊本県立劇場コンサートホール		実績値	1,210
3	ホワイエサロンコンサート	令和5年5月13日(土)、6月17日(土)、9月1日(金)	コンサートホールホワイエを活用し、邦楽や室内楽など小編成のコンサートを実施した。	目標値	500
		熊本県立劇場コンサートホールホワイエ		実績値	634

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台技術の基礎講座	令和6年1月20日 (土)、21日(日)	高校生、大学生、専門学校生が対象の、舞台技術の基礎を学ぶことができる講座。	目標値	20
		熊本市男女共同参画センター「はあもにい」メインホール		実績値	24
2	劇場人育成プログラム	令和5年4月19日 (水)～令和6年2月17日(土)	公共ホール職員向けの研修として、アートマネジメント、舞台技術などを学ぶ全9講座を実施した。	目標値	250
		熊本県立劇場大会議室ほか		実績値	240
3	登録アーティスト募集・育成事業	令和5年8月1日 (火)～令和6年2月22日(木)	演奏家派遣アウトリーチ事業に派遣する登録アーティストの募集及び育成事業。新たに3名を採用した。	目標値	20
		熊本市男女共同参画センター「はあもにい」多目的ホールほか		実績値	16

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	市町村ホールネットワーク事業	令和5年6月～10月	市町村ホールと連携し、県内全域で公演を実施する事業。 出演：野村万禄ほか	目標値	2,900
		荒尾総合文化センターほか		実績値	2,277
2	演奏家派遣アウトリーチ事業	令和5年10月～令和6年3月	熊本県立劇場協力アーティストによるアウトリーチ。 出演：小路永和奈(箏)ほか	目標値	1,625
		美里町の小学校ほか		実績値	2,224
3	劇場って楽しい!!～知的・発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム～	令和5年6月10日(土)	知的・発達障がい児(者)に鑑賞者としてのルール等を学んでもらう劇場体験プログラム。	目標値	180
		熊本県立劇場演劇ホール		実績値	377
4	みんなで踊ろう!～障がいのある人もない人も、一緒に踊るワークショップ～	令和5年7月15日(土)、16日(日)	障害者も参加できるダンスワークショップ。障害者が文化芸術に触れ、表現できる機会を提供する事業。	目標値	30
		熊本県立劇場演劇リハーサル室		実績値	45
5	バックステージツアー行くぜ!劇場探検隊2023	令和5年8月23日(水)	演劇ホールのバックステージを探検し、子どもたちに舞台機構や劇場に興味を持ってもらう事業。	目標値	60
		熊本県立劇場演劇ホール		実績値	58
6	県劇盆踊り	令和5年8月15日(火)	劇場の専門性を活かし邦楽の演奏家による生演奏で実施。「共生の劇場」として県民相互の交流を目指す。	目標値	800
		熊本県立劇場コンサートホールホワイエほか		実績値	2,100

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
運営方針や地域のニーズ等を踏まえて設定した4つのミッションに基づき、事業を組み立て実施した。
<b>公演事業</b> ミッション4「県民の文化芸術鑑賞（活動）の殿堂としての劇場」としての役割を果たすため、公演事業1～3を予定通りに実施した。 <b>公演事業1</b> は、国内外で活躍するアーティストと子どもたちがコラボレーションする企画として注目され、目標入場者数を達成できた。 <b>公演事業2</b> は、熊本県内唯一のクラシック音楽専用ホールの特徴を活かすために実施したフルオーケストラ公演で、メインプログラムがエルガーの交響曲第1番とやや玄人好みだったものの、来場者アンケートの満足度は100%を記録した。 <b>公演事業3</b> は、ホワイエならではのサイズ感と音響を間近で楽しんでもらうシリーズ公演として昨年度に引き続きの実施。すべての公演が完売した。
<b>人材養成事業</b> ミッション3「未来を担う世代を育成する劇場」として、人材養成事業1～3を実施した。 <b>人材養成事業1</b> ではバンド公演を題材に、仕込み、本番、バラシの流れを通して体験することでより実践的な講座とした。 <b>人材養成事業2</b> については、全9回の研修を計画通り実施。主たる対象を県内の文化ホール職員とし、ミッション2「県内文化ホールの中核拠点としての劇場」の役割も果たした。 <b>人材養成事業3</b> では3人のアーティストを採用。いずれもこれまで子ども向け公演やアウトリーチの経験はほとんどなかったが、研修を通して精度の高いアウトリーチプログラムを作成することができた。
<b>普及啓発事業</b> ミッション1「こころの復興、共生の場としての劇場」を目指し、普及啓発事業1～6を実施した。 <b>普及啓発事業1</b> は9市町村9公演、 <b>普及啓発事業2</b> は11市町村64コマを計画どおりに実施、文化芸術に触れる機会の少ない地域でのアート体験や鑑賞機会を提供した。 <b>普及啓発事業3、4</b> では障害の有無に関係なく文化芸術に触れ親しむ機会を提供し、誰もが文化芸術に触れることができる環境づくりに寄与した。 <b>普及啓発事業5</b> は当日キャンセルが出たものの概ね定員どおりの参加となり、参加者の舞台芸術や劇場への興味増大につなげることができた。 <b>普及啓発事業6</b> では、目標を大幅に上回る2,100人が来場した。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<b>文化的意義</b> ：熊本にいながらプロの実演家による指導を受ける機会（ <b>公演事業1</b> ）や、質の高い実演芸術を鑑賞する機会（ <b>同2、3</b> ）を提供したほか、だれもが芸術文化に触れることができる機会（ <b>普及啓発事業1～6</b> ）を創出し、熊本県の文化・芸術の水準向上に寄与している。
<b>社会的意義</b> ：2018年に発足した「熊本県立劇場のあり方検討会」において、県立劇場に「舞台芸術に関する人材育成・確保」や「県内の公立文化ホールと連携した取り組み」を求める提言が示された。これを受け、 <b>人材養成事業1～3</b> で舞台芸術に関する人材育成を、 <b>普及啓発事業1、2</b> で県内の公立文化ホールと連携した事業を行うなど、地域社会の要請に応えている。
<b>経済的意義</b> ：助成金を活用し、多くの人が劇場内外で文化芸術に親しめる事業を計画・実施した。助成対象事業の来場者総数は10,605名であり、公共交通機関や周辺飲食店、宿泊施設などに経済的な貢献をしたと考えている。また、 <b>普及啓発事業1</b> において、熊本市内に集中していた舞台芸術公演を県内各地域の文化施設で実施。当該地域での消費活動にも貢献した。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【公演事業】

- 目標(1) 県民の文化芸術活動の拡大を図る  
 目標(2) 県民の鑑賞活動の充実を目指す  
 目標(3) 地域における更なる実演芸術の振興のため、裾野の拡大を目指す  
 目標(4) 青少年の鑑賞機会拡大を目指す  
 目標(5) 誰もが文化芸術に親しめる環境をつくる

目標	指標	事業番号	目標値	実績値
(1)	指標① 制作公演における県民参加者数	1	80人	86人
(2)	指標② 公演満足度	1・2・3	95%	99%
(3)	指標③ 新規顧客数		10%	18.3%
(4)	指標④ 青少年鑑賞数		300人以上	744人
(5)	指標⑤ 障害者の鑑賞者数		50人以上	92人

#### 【人材養成事業】

- 目標(1) 熊本県内の公共ホール職員の専門性・資質を向上させる  
 目標(2) 舞台スタッフや制作者等、舞台芸術を担う業種を志す青少年を育成する  
 目標(3) 熊本の未来を担う実演家の発掘と養成

目標	指標	事業番号1		事業番号2		事業番号3	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
(1)(2)	指標① 参加者数	20人	24人	250人	240人		
(1)(2)	指標② 満足度	95%	100%	95%	95.8%		
(1)	指標③ 興味の増大	90%	100%	-	-		
(2)		習熟度	-	-	95%	95.6%	
(1)	指標④ 外部委員による定性評価	下記①記載		-	-		
(2)		向上性	-	-	-	93.6%	
(3)	指標① 新規登録アーティスト数					2人	3人
	指標② プログラム作成、模擬アウトリーチ実施					下記②記載	
	指標③ オーディション参加者数					20人	7人

- ① 外部委員による定性評価：委員からは、「普段裏方として働いている技術スタッフにも光が当たる事業。学生への説明など、舞台スタッフにとっても訓練になる貴重な場である」等の意見が寄せられ、未来の舞台技術者育成だけでなく舞台スタッフの育成に対する評価も高かった。
- ② 研修の成果：2回の研修を通し、アウトリーチのプログラムを作成。その後熊本市内の小学校で実際にアウトリーチを実施し、プログラムのブラッシュアップに活かした。

#### 【普及啓発事業】

- 目標(1) 文化芸術の裾野を拡大し、県民の鑑賞活動及び文化芸術活動の充実を図る  
 目標(2) 誰もが文化芸術に親しめる環境を創出する

目標	指標		事業番号	目標値	実績値
(1)	指標① 興味の増大	a.演奏してみたくなった	2	80%	75.1%
		b.音楽が好きになった		80%	82.4%
	指標② 波及効果	家族に話したくなった		70%	73.8%
	指標③ 都市圏以外の観客		1	2,200人	1,791人
	指標④ 新規顧客数(同様の公演を初めて鑑賞した)		1	40%	74.4%
	指標⑤ 興味が湧いたか		5	90%	100%
(2)	指標⑥ 来場者数		6	800人	2,100人
			3	90%	96.6%
	指標① 満足度		4	90%	93.3%
	指標② 外出のハードルが下がった		3	70%	78.7%

【総括】ほとんどの項目で目標を達成したものの、人材養成の目標(3)「熊本の未来を担う実演家の発掘と養成」と普及啓発の目標(1)「文化芸術の裾野を拡大」に未達の項目があり、課題を残した。実演家の養成と都市圏以外の観客増については、いずれも令和6年度以降も継続し取り組んでいく。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【公演事業】

すべての事業において当初の予定通りのスケジュールで実施した。**公演事業1**について、県内の中高生によるジャズバンドのリハーサルを6月中旬から開始。中高生バンドという性質上2ヶ月半という期間は十分とはいええないものの、特別ゲストを講師に迎えるなどして短期間で内容の濃いリハーサルを行い、本番のパフォーマンスは観客から好評を得た。

##### 【人材養成事業】

**人材養成事業1**は劇場工事休館中に外部の会館で実施する事業として計画、開催館の協力を得て当初の予定通りに実施することができた。**人材養成事業2**についても全カリキュラムにおいて想定通りのスケジュールで実施した。**人材養成事業3**はオーディションを経て実施した研修事業で、予定通りの実施で3人の登録アーティストを育成することに成功した。

##### 【普及啓発事業】

全ての事業において、概ね当初の予定通りに実施した。**普及啓発事業1・2**は市町村担当者と協働でスケジュール組み等の準備を行うことでスムーズな運営に繋がった。**普及啓発事業2**は演奏家の急病で年度後半にスケジュールの変更が生じたものの、市町村担当者と協働で調整し、年度末までにリスケジュールすることができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【公演事業】

支出については、すべての事業において旅費や運搬費が高騰し、計画より上振れした。とくに海外オーケストラの招聘公演である**事業2**について大きな影響を受けた。一方で、**公演事業1**で予定していたバス借上げ費の圧縮等さまざまな角度で経費節減に努め、公演事業全体では当初予定を3.8%程度下回る実績で着地することができた。収入面では、もっともウエートの大きい**公演事業2**のチケット収入が目標に届かなかったことが影響し、協賛金100万円を獲得するなど外部調達も行ったが、当初計画の12.9%減に留まった。

##### 【人材養成事業】

事業費の執行は**事業1・2**ともに計画を下回った。**人材養成事業1**において、当初は外部の舞台技術会社からスタッフを招いて実施する予定だったが、その後共催の熊本市男女共同参画センターはあもにの舞台スタッフの協力が得られることとなり、計上していた舞台スタッフ費が不要となった。**人材養成事業3**においても、劇場改修工事の進捗の都合上、外部会場の借用が不要となったことなどで、経費を大幅に抑えられた。収入についてはすべての事業で当初計画通り。

##### 【普及啓発事業】

**普及啓発事業2**において開催地の学校側と演奏家のスケジュールがうまくかみ合い、想定より効率的に事業を組むことができ、経費を抑えることができた。そのほかの事業は概ね想定通りで、全体の執行は当初計画を7.8%下回った。収入は概ね計画通り。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### (1) 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在

平成28年1月から姜尚中（政治学者・東京大学名誉教授）が館長を務めている。就任以降地域に根差した「共生の劇場」を目指し、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが等しく文化芸術に親しめる**普及啓発事業3、4**を始めとした事業を展開するほか、熊本地震の被災者に寄り添う心の復興事業にも積極的に取り組んできた。また、財団及び県内公共ホールの専門人材育成に力を入れ、令和2年3月に「実演芸術を担う人材の育成基本計画」を策定。県内ホール職員を対象とした**人材養成事業2**をはじめ、**人材養成事業1、3**の実施等、舞台芸術に関わる人材の育成及び確保に積極的に取り組んだ。

#### (2) 提携団体の存在

実演芸術に関係する高等教育機関との連携による人材育成を目指し、令和元年度に平成音楽大学及び熊本デザイン専門学校と、令和2年度に熊本大学教育学部と連携協定を締結。その他、県内の文化連盟等とも適宜協力しながら、学生たちの文化芸術に対する理解を深め、将来の劇場人育成に繋がられるよう、コンサートや社会包摂事業の共同企画・実施、舞台や衣装デザインの制作、インターンシップ生の受け入れ、コンサート時の学生集客に取り組んでいる。令和5年度は**公演事業1**において、熊本県吹奏楽連盟と協力し、当団体が持つ幅広いネットワークを活かし、熊本市内のみならず県内の様々な地域から出演者を揃え、地域格差なく高水準のレッスンを受けられる機会を創出した。**人材養成事業1**では会場の舞台職員や熊本県高等学校文化連盟、熊本県高等学校軽音楽連盟と連携して事業を企画。地元の人材を活用し、各所と協力して青少年の育成に取り組んだ。

#### (3) 創造活動に関わる「建物」としての劇場

令和5年11月13日から令和6年3月15日までの4カ月の間、改修工事を実施。照明のLED化や、空調を更新し、より安全で快適な舞台環境を整えた。さらに近年の文化事業では、ミッション1「こころの復興、共生の場としての劇場」に掲げているように年齢や障害の有無にかかわらず、等しく文化芸術に親しめる環境整備に努めている。また、様々な規模や対象にあわせた公演の実現のため、条例を改正し令和3年4月よりホールの部分利用（ホワイエのみ、ステージ上のみ等）を可能とする新しい施設の使用区分を設けた。これにより、**公演事業3**のような、良質な室内楽や小規模公演が実施できるようになり、貸館事業での利用も増加している。

#### (4) 熊本県の文化の中核拠点としての企画および芸術性

熊本県立劇場は、1982年の開館以降、県民が高度な舞台芸術に触れる中核拠点として機能してきた。**公演事業1**では、熊本県内で活発な「吹奏楽」と「ジャズ」に焦点を当て、公募で集まった県内の中高生からなる「JAZZ ドリームバンド」を結成。熊本県吹奏楽連盟と協力し、県内全域まで幅広く公募し、86名の県内出演者が集まった。合同練習では、トップミュージシャンによる指導を実施し、子どもたちの音楽的な可能性を引き伸ばす機会と場を創出した。**公演事業2**では、熊本県唯一のクラシック音楽専用ホールの特色を生かした良質なクラシック音楽公演を実施した。**公演事業3**では①県民に良質な室内楽公演を届ける②県出身の若手演奏家を積極的に起用し演奏機会を与えることで更なる演奏技術の向上に寄与する、という二つの目的から事業を企画。全3回、関連企画1回の企画のうち、3回は県出身のアーティストによる公演を実施した。

人材養成事業では、**人材養成事業1**で将来の舞台技術者養成、**人材養成事業2**で舞台芸術を担う専門的人材の育成及び確保に取り組んだ。**人材養成事業1**は高校生・専門学校生・大学生、**人材養成事業2**は県内の公共ホール職員とターゲットを明確にし、ニーズに沿った体系的なプログラムを作成。その分野の専門家を講師に招き実施した。**人材養成事業3**では、県出身の若手アーティスト3名（トランペット、クラリネット、ソプラノ）を採用し、育成のための研修会を行った。



普及啓発事業では、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを目指し、生の舞台芸術に親しむ機会が少ない過疎地域の住民や子どもたち、障害がある方にアプローチした事業を展開した。各市町村ホールと連携し、県内全域に実演芸術を届ける**普及啓発事業1**では、派遣アーティストのラインアップを見直したほか、より地域の希望に沿った公演の実現のため、具体的な要望を聞き取りながらつくる「オーダーメイド型」も併用して実施している。クラシック音楽や邦楽の魅力を子どもたちに伝える**普及啓発事業2**では、実施する学年に合わせてプログラムを見直し、より分かりやすく伝える工夫を行った。**普及啓発事業3、4**は、普段劇場に行くことが難しい知的・発達障害や身体障害を持つ方などを対象に、劇場という空間に慣れ、鑑賞のルールを学ぶことができる公演や、障害の有無に関わらず、誰もが参加できるワークショップを実施した。いずれも障害の特性を事前に聞き取り、必要なケアを想定して計画を進めた。**普及啓発事業6**ではホールホワイエに特設のステージを組み、邦楽家の演奏で盆踊りを楽しむほか、飲食やゲームコーナーも準備。近隣校区の店舗・企業と連携を行いながら、開かれた劇場として地域住民が楽しく集える場を創造した。

上記のどの事業も県立劇場が継続的に取り組み、例年の事業として認知・定着してきたものであるが、実施にあたっては開催市町村やアーティスト、知的・発達障害に関する専門機関との連携が不可欠である。今後も県立劇場のネットワークを活かし、地域の文化拠点として、特色ある企画の立案及び実施に取り組んでいく。

#### 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

平成30年に熊本県立劇場条例が一部改正され、県立劇場が果たすべき役割として「実演芸術の進行を担う人材の育成・確保」と「実演芸術の振興のための地域との連携」が追加された。このことを熊本県（民）というステークホルダーからの要請と捉え、劇場の資源を重点的に投入し事業に取り組んだ。

「実演芸術の進行を担う人材の育成・確保」を図るための事業として、公立文化施設職員向けの研修プログラムとして**人材養成事業2**を計画し継続して実施。令和5年度は要望の多かった接遇研修や、広報、舞台技術研修などバラエティに富んだカリキュラムを揃えた。実施後に行ったアンケートでの満足度の平均は95.8%と目標を上回り、必要とされるプログラムを提供できたと評価する。将来の舞台技術者の育成を目指し実施した**人材養成事業1**では、アンケート満足度100%を達成。専門的かつ充実度の高い講座を開くことができた。**人材育成事業3**では、新たに3名のアーティストを採用。選考から研修までアウトリーチの専門家からのアドバイスを受け、県出身アーティストの育成だけでなく県内スタッフの育成にも繋げることができた。

「実演芸術の振興のための地域との連携」を図る事業として、市町村の教育委員会や公立文化施設との協働で**普及啓発事業1・2**を実施。**普及啓発事業1**では、熊本都市圏以外からの観客は推計1,791人となり、アンケートでは74.4%が同様の公演を初めて鑑賞したと回答。地域の文化芸術の発展に繋げることができた。また、**普及啓発事業3**は、毎年継続して事業を行っていることから関係者への認知度も高まっており、リピーターも多い。アンケートでは、「この体験をきっかけに地域の劇場、ホール、映画館に行こうと思いますか？」という問いに対し、78.7%が「思う」と答えるなど、継続することによる当事者の変化も感じられる。公演に際し、連携協定を結ぶ熊本大学教育学部の特別支援教育学科に所属する学生や、県内の福祉関係者の視察を受け入れており、大学および各福祉関係機関と連携しながら人材育成の機会に繋げている。また、令和5年度からは鑑賞型だけではなく、障害者が表現活動を行える環境を整備していくため、体験型の事業として**普及啓発事業4**を実施。はじめての取り組みではあったが、参加者からは「今回をきっかけにいろんなことに挑戦して、表現することが得意になりたい」「開放的な気持ちで楽しみながら参加できた」といったコメントが寄せられ、一定の成果が見られたと考える。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

平成18年度から同30年度までは公募による指定管理だったが、文化事業による県民への普及啓発活動等や関係機関との連携が評価され、令和元年度から非公募選定となった。これにより、県の文化行政とさらに連携を密にし、安定的で持続可能な組織運営体制の構築を図っている。

具体的な取り組みは下記の通り。

#### 【事業運営】

劇場の社会的役割を果たすため、公演事業・人材養成事業・普及啓発事業をそれぞれ企画し、ほぼ計画通り実施を果たした。事業実施後は担当グループ内で振り返りを実施し、観客アンケートの分析も織り込んだ「個別事業評価シート」を作成し自己評価および今後の方針検討を実施している。併せて、県内の文化に関わる有識者で構成する外部評価委員会「文化事業評価委員会」を年2回開催。委員からのレポートで個別事業の目標達成度を測り、事業改善に向けた意見を議事録として取りまとめ、次年度事業計画に反映している。

#### 【経営戦略（財務面）】

公益法人の財務基準をクリアし健全な財務状況を維持している。事業財源の確保にあたっては、県からの委託費を基本として、文化庁（地域の中核劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業）や（一財）地域創造（地域の文化・芸術活動助成事業）から助成採択されたほか、市町村からの共催負担金（令和5年度実績7,436千円）等、多様な財源を確保している。また、子どもへの鑑賞機会提供のための特定費用準備資金を整備するなど、計画的な予算措置を行っている。

#### 【人事戦略】

事務局体制は、総務、施設サービス、舞台技術、事業の4グループ制にて、正職員17名、契約職員5名（うち無期契約職員2名）、嘱託職員（再雇用職員）2名、派遣職員1名で運営している。契約職員の正職員登用や有期契約職員の無期転換等により、正規雇用率は平成28年度の約50%から令和5年度には約73%に改善。雇用の安定化を図り、安定的で持続可能な運営体制の整備を進めた。

#### 【ネットワークの構築】

熊本県内の公立文化施設35館が加盟する熊本県公立文化施設協議会の会長館として、県内全域の文化振興と舞台芸術のレベルアップを図るため、県内の文化ホール職員を対象とした研修事業（人材養成事業2「劇場人育成プログラム」）を実施。また、普及啓発事業1、2において事業の共同実施等を積極的に行い、県内文化ホールの中核施設としての役割を果たしている。

その他、高等教育機関との連携強化のため、令和2年3月に平成音楽大学および熊本デザイン専門学校、令和3年3月に熊本大学教育学部と人材育成に係る連携協定を締結、新たな地域文化の創造・振興と人材育成を継続的に行っている。

県外とのネットワークについては、平成10年に九州内拠点ホールによる情報交換会「九州類似ホール連絡会」を立ち上げ、毎年定期的な会議を行う等リーダー的役割を果たしている。また、劇場・音楽堂等連絡協議会では、九州から唯一事務局メンバー（音楽部会長）として参加。これらのネットワークを活用し、県外の劇場・音楽堂等と連携した企画に毎年取り組んでいる。